

1. 計画改定の趣旨

本県や国において、デジタル社会の推進に向けての動きが加速するとともに、コロナ禍によってデジタル化の遅れが顕在化したことから、これらの課題等に対応し、デジタル社会の形成を強力に進めていくため、現行計画を全面的に改定します。

【コロナ禍で顕在化したデジタルをめぐる課題】

- 行政、教育、医療等の分野におけるデジタル化への対応
- データに立脚した政策立案の重要性
- DX人材の不足

【国のデジタル社会形成をめぐる動き】

- デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針
- デジタル庁の設置
- デジタル社会の実現に向けた重点計画

【現行計画策定以降の本県の動き】

- デジタル社会推進局発足
- みんなの想いを実現する「あったかいDX」の推進
- 「みえDXセンター」の設置（R3.9）
- 三重県 デジタル社会の未来像（R4.3策定）



・三重県のデジタル社会形成に向けた方向性

みえデジタル戦略推進計画を改定

みえのデジタル社会の形成

2. 改定後の計画の位置づけ

- ・みえ元気プランのデジタル分野における分野別計画
- ・「自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画」
- ・「都道府県官民データ活用推進計画」

みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画

全面改定

（現行）みえデジタル戦略推進計画

継承・発展

みえICT・データサイエンス推進構想

3. 計画の期間

- ・策定後～2026年度（令和8年度まで）
※社会情勢の変化やデジタル技術の進展、国の動向等もふまえ、計画期間中も必要に応じて見直しを行います。

4. 三重県を取り巻く情勢

三重県の課題

- ・人口減少
- ・少子高齢化
- ・災害リスク

三重県の特長

- ・きれいな海と川、根付く文化
- ・中山間地、離島
- ・製造業や一次産業、観光業



今後も人口減少が加速し、行政ニーズの多様化・複雑化が進む中で、移動手段の確保、大規模災害のリスク、働く場所の確保、地域の活性化といった様々な地域課題が顕在化

5. 三重県がめざす社会

誰もが住みたい場所に住み続けられる三重県
 ~デジタル社会の推進により、県民それぞれの「心豊かな暮らし」と「持続可能な地域社会」が実現されている三重県~

デジタル社会 「デジタルが社会に浸透することによって、誰もが、直接的、間接的にデジタルの恩恵を受けることができる社会」

デジタル社会の形成により、県民の皆さんの時間や気持ちに余裕が生まれ、自己実現を図ることで、「心豊かな暮らし」と「持続可能な地域社会」が実現されている三重県をめざします。

○人々の生活の中心となる「暮らし」

暮らしのDX

○暮らしを支える「しごと」

しごとのDX

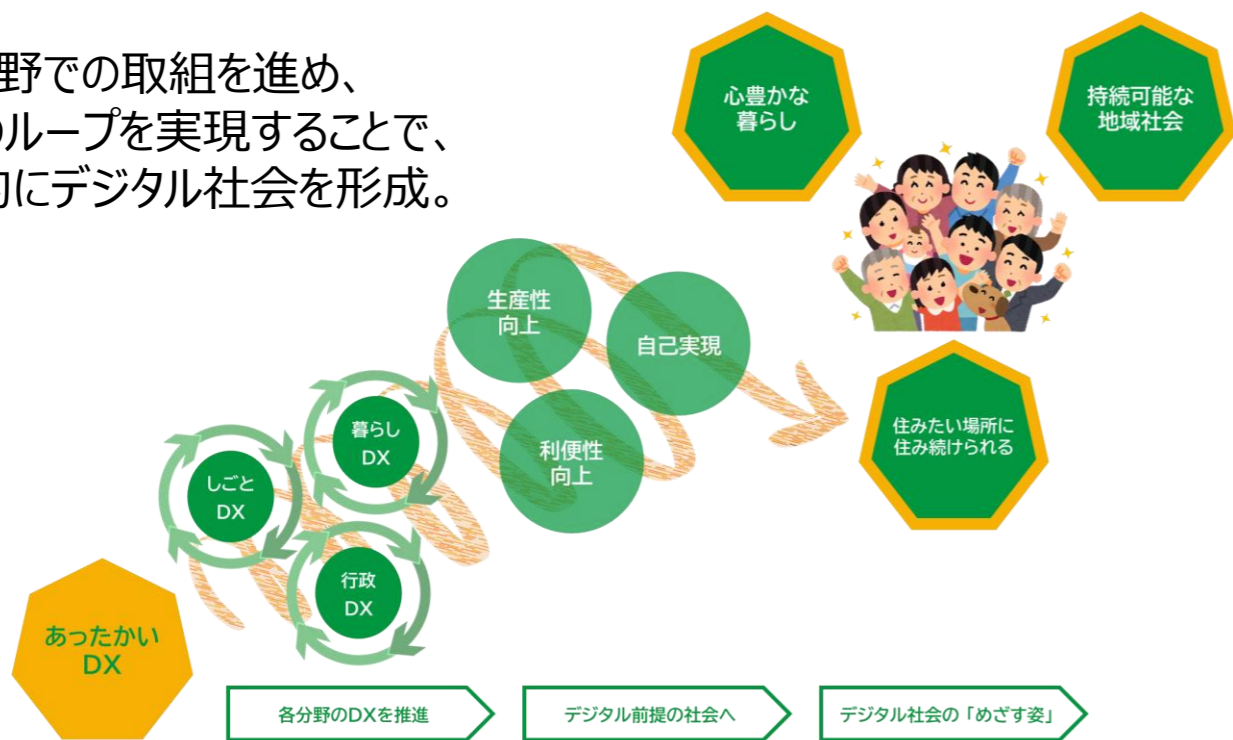
○社会を支える「行政」

行政のDX



ワンストップ相談窓口

3つの分野での取組を進め、好循環のループを実現することで、加速度的にデジタル社会を形成。



みえのデジタル社会の形成

6. 推進にあたっての視点

本計画の推進、デジタル社会の実現にあたっては、以下の5つの視点を持って、各分野の取組を進めます。

① オープン・透明・公平

デジタルに対する不安を軽減し、誰もが恩恵を受けられる社会の構築等に向けたオープン、透明、公平の視点



② 安全・安心・強じん

セキュリティ、個人情報保護等の不安や事故、災害のリスクの低減等、安全、安心、強じんの視点



③ 社会課題の解決・新たな価値の創造

県内の多様な地域が抱える社会課題を解決し、新たな価値の創造となるイノベーションの促進を図る視点



④ 迅速・柔軟・継続

デジタルならではのスピード感を生かし、県民のニーズや社会状況の変化に対応するなど迅速・柔軟・継続の視点



⑤ ユーザー視点

誰もがデジタルを活用できるよう、県民の視点に立つことを追求することにより、行政が行うサービス全体を根本から見直し、優れたサービス体験を実現し続けるという視点



7. 本計画の枠組み

基本理念

みんなの想いを実現する「あったかいDX」
DXによって、県民の皆さんの時間や気持ちに余裕が生まれることで、自己実現が図られ、幸福実感が向上

めざす姿

誰もが住みたい場所に住み続けられる三重県
～デジタル社会の推進により、県民それぞれの「心豊かな暮らし」と「持続可能な地域社会」が実現されている三重県～

各分野におけるめざす姿

暮らしのDX	しごとのDX	行政のDX
県民一人ひとりが健康で心豊かな生活を実感できる暮らしの実現	新事業の創出や生産性・安全性等の向上による、持続可能な産業の実現	県民の皆さんの利便性の向上や多様な利用者の目線に立った行政サービスの実現

DXの推進にあたっての視点

- ① オープン・透明・公平
- ② 安全・安心・強じん
- ③ 社会課題の解決・新たな価値の創造
- ④ 迅速・柔軟・継続
- ⑤ ユーザー視点



デジタル社会形成 前提条件

みんなが暮らしやすい「寛容な社会」
ジェンダー平等を含んだダイバーシティ（多様性）& インクルージョン（包摂）・サステナビリティ（持続可能性）

各分野の取組：暮らしのDX（上段：めざす姿 下段：具体的な取組）

デジタルを活用した防災対策

・防災情報の提供にデジタル技術を活用することで、すべての避難を必要とする人が適切に避難できる地域づくりが進んでいる。

- AIを活用した、幅広い災害情報の早期収集
- デジタルマップを活用した地域の避難計画の作成の支援



交通空白地等における移動手段の確保

・地域の実情に応じた公共交通に関する方向性が整理され、多様な輸送資源を活用することにより、新たな移動手段の確保が進んでいる。

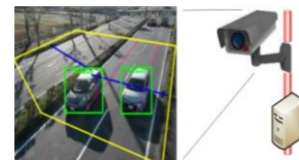
- 次世代モビリティ等を活用するなど、地域の実情に応じた新たな移動手段確保に向けた取組を支援



デジタルを活用した安心・安全の確保

・社会インフラにおいてデジタル技術により、県民の皆さまの安全・安心な暮らしが確保されている。
 ・強靭な水道及び工業用水道の構築が進んでいる。
 ・児童虐待の未然防止や早期発見・早期対応が進んでいる。
 ・AI等の最先端技術や最新のデジタル機材を活用し犯罪の早期検挙等が図られている。

- 重点監視箇所での水位・画像データのリアルタイム収集・提供
- 蓄積したデータの活用による、機器の異常の予兆の検知
- AI技術等のツールを活用した職員の専門性の向上や業務効率化等への支援
- 高度AI画像分析システム等の導入による高速で高度な画像分析や鑑定の実施



デジタルデバインド対策

・国や市町、事業者と連携したデジタル活用支援や、5G、光ファイバ等のデジタル基盤の整備が進んでいる。

- 市町等と連携し、国が実施するデジタル活用支援事業の活用



誰もが安心して利用できる環境の整備

・インターネット上の人権侵害について、早期発見、拡散防止などの対応がとられている。
 ・誰もが利用しやすい消費生活相談体制の構築が進んでいる。

- 人権課題に関する掲示板等への悪質な書き込みの早期発見
- ターゲティング広告を通じた差別的な書き込みの未然防止



・だれにも相談できずに生きづらさを抱えている人や、いじめをはじめとする悩みを抱えた子どもなど、少しでも多くの県民の皆さんの不安に寄り添えるよう、デジタルを活用した相談しやすい環境づくりが進んでいる。

- 若者に身近なSNS等を活用した相談体制の構築



デジタルを活用した健康づくり

・企業等と連携して健康づくりに取り組み、県民一人ひとりが望ましい生活習慣を身につけ、企業の健康経営が促進される社会環境づくりが進んでいる。

- データやデジタル技術を活用した、市町における健康づくりの取組や企業等の健康経営の取組事例を情報発信



ICTを活用した教育の推進～授業の改善～

・児童生徒が、1人1台端末を活用した分かりやすい授業をとおして、意欲的・主体的に学習に取り組む態度や、自分なりの学び方を工夫できる力を身につけている。

- ICTをツールとして活用して、地域や社会等の課題を発見・解決する探究学習や、STEAM学習の推進
- デジタル教科書や教材等を活用した学習活動の充実



各分野の取組：しごとのDX（上段：めざす姿 下段：具体的な取組）

観光におけるDX

・観光マーケティング・マネジメントを行い、旅行ニーズに合わせた戦略的な観光プロモーションを展開、三重県における観光消費額が増加している。

- 三重県観光マーケティングプラットフォームを活用したデータ分析



産業の支援

・DXの推進などにより、循環関連産業の振興を図ることで、資源の循環利用と循環経済の拡大につながる好循環が生み出され、循環型社会が形成されている。
・中小企業等の事業継続など経営基盤を強化し、経営課題の解決に向けた生産性の向上をはじめ、事業承継や創業など新陳代謝を促す取組が進んでいる。

- 産業廃棄物を使った製品開発やICT設備等の導入等に取り組む県内事業者に対して経費の一部を支援
- 三重県版経営向上計画、経営革新計画の作成支援



スマート農業・林業・水産業のDXの推進

・農林水産事業者において、AI等のICTを活用したスマート技術の導入が進展し、従事者の確保及び定着につながっている。

- スマート技術の導入による作業の省力化や生産性の向上の推進



産学官連携でのDXの推進

・DXに取り組もうとする機運が醸成されており、デジタルに関する知識やスキルを有した人材が増え、産業や暮らしなどさまざまな分野においてDXの取組が進んでいる。
・企業のセキュリティ意識の向上や対策等が図られ、サイバー空間の安全・安心が確保されている。

- 「みえICT・データサイエンス推進協議会」参画団体による新たなビジネスの創出につながるようなプロジェクトの推進
- 産学官が連携したサイバーセキュリティに関する情報共有、啓発活動等の実施

建設DXの推進

・ICT等建設DXによる生産性の向上等を推進することにより、社会資本の整備・維持管理等が実施され、県民の皆さんの安全・安心が確保されている。

- ICTを活用した工事割合の向上



DX人材の確保・育成

・DXに取り組もうとする機運が醸成されており、デジタルに関する知識やスキルを有した人材が増え、産業や暮らしなどさまざまな分野においてDXの取組が進んでいる。（再掲）
・企業経営者等がDXを理解し、DX推進・実践のための場が社内に設けられ、従業員がリーダーとしてDX推進をけん引している。
・企業や地域のニーズに合ったスキルを身につけた若年人材が育成・確保され、中小企業の実業性向上や競争力強化が図られている。

- 幅広くテーマを設定したDX人材育成研修の実施
- DXによる経営変革とエネルギー生産性の向上等について学ぶ人材育成講座等の実施
- 情報ネットワークの整備や情報システムの構築を担う人材の育成



新産業の創出

・革新的なデジタル技術等の社会実装が進み、社会・地域課題の解決が図られている。
・ドローンや「空飛ぶクルマ」の活用による地域課題の解決、新たなビジネスが創出されている。
・ヘルスケア分野における新しい製品・サービスが創出され、企業の事業拡大を通じたヘルス産業の振興につながっている。

- 事業計画の磨き上げ、ネットワークづくり等への支援
- ドローンや「空飛ぶクルマ」の活用による実証実験等への支援
- ヘルスケア分野におけるデジタル技術を活用した取組事例の情報発信



多様で柔軟な働き方の推進

・ICTおよび介護ロボットの導入により、介護職員の負担軽減や業務効率化がなされ、介護サービス事業所における働き方改革、介護人材の確保が進んでいる。
・テレワークなど多様で柔軟な働き方が選択できる勤務形態の導入が進んでいる。

- ICTおよび介護ロボットの導入を行う介護サービス事業所に対する支援
- テレワーク相談窓口の設置やテレワーク入門研修の実施



各分野の取組：行政のDX（上段：めざす姿 下段：具体的な取組）

行政手続のデジタル化

・誰もが簡単にスマートフォン等の利用を通じて行政手続を済ませることができるようになり、利便性が向上している。

- 県独自の手続きについて、75の重点手続（年間受付件数約11万件）を定め、R6年度までにデジタル化を実現



デジタルコミュニケーションの推進等によるデジタル改革の推進

・デジタル技術を活用した業務プロセス改革や庁内におけるデジタルコミュニケーションが進むなど、県庁内におけるDXが推進され、生産性が向上するとともに、多様で柔軟な働き方が実現している。

- ビジネスチャットなどによるデジタルコミュニケーションの促進
- 在宅勤務システム、WEB会議システムなどテレワーク環境の整備及び活用促進
- RPA及びAI-OCRの活用などによる業務効率化の推進



DX人材の育成

・DX人材の育成を推進することで、県庁DXのめざす姿（県民サービスが変わる！仕事の仕方が変わる！働き方が変わる！）の実現に向けた取組が進んでいる。
 ・サイバー捜査研修、IT関連企業等への派遣や研修等を通じ専門的知識を有する人材が育成され、デジタル技術を使用した新たな犯罪にも的確に対応できる体制が構築されている。

- DX推進スペシャリストを養成するための研修等の実施
- サイバー捜査研修等を通じた専門的知識を有する人材の育成



業務プロセス改革

・デジタル技術を活用した業務の合理化・効率化を推進することで、防犯・捜査活動、交通事故抑止対策を強力に推進できる体制が構築されている。
 ・県政情報を電子版でも提供し、県民の皆さんが必要な情報を得られている。
 ・納付機会を拡大するため、納税環境の整備が進んでいる。
 ・デジタル技術を活用した院内手続きの迅速化により患者の利便性が向上している。

- 「勤務管理システム」等の構築による業務の合理化・効率化の推進
- 県広報誌を電子版で提供
- 納税環境の整備
- マイナンバーカード健康保険証利用促進に係る患者への周知



情報通信基盤の整備・運用と情報セキュリティ対策

・行政DXを支える情報通信基盤の整備が進み、安定的に運用されている。
 ・新たな脅威に備え、適切な情報セキュリティが確保されている。
 ・警察組織を支えるネットワークの高速化や高機能な資機材の整備が図られている。

- コミュニケーション基盤、データ活用基盤、セキュリティ基盤の3つのサブ基盤で構成されるDX推進基盤を新たに整備
- 情報セキュリティの確保に向けた技術的、人的対策を実施
- ネットワークの高速化や高機能な資機材の整備の推進



市町DXの促進

・市町における情報システムの標準化・共通化、行政手続のデジタル化等のDXに向けた取組が進み、広く県民の皆さんの利便性が向上している。

- 各自治体が抱える課題の共有やデジタルサービス・ツール等の共同調達・運用、人材育成、データ活用に向けた検討等、市町間及び県と市町の連携強化



データ連携・利活用

・県や市町等が保有するデータを活用した政策立案や新たなサービスの創出により、行政課題、地域課題の解決が進んでいる。

- 県保有データの調査、データ活用に関する方針策定
- オープンデータの充実（現行オープンデータライブラリの再構築）

